

成果指標				
成果指標	申請件数			
指標設定の考え方	当該介護給付等対象サービスに要した費用の一部を貸付け、必要とするサービスを受けられるようにすることが目的であるため、その申請件数が成果と考えるため。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	2	5	0	0
実績	0	0	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	昨年度・今年度と実績はないが案件がいつ出てくるかわからないため今後は予算規模を縮小しても継続すべきと考える。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	高額介護サービス費貸付事業は、近年利用者はいないが、制度として存続することは必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	本当に利用対象者がいないのかどうか制度の周知を図る必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	下記の点を見直しの上、継続する。
意見、課題	二次評価の内容を踏まえ見直すこと。